

2023年8月17日
豊見城市
沖縄電力株式会社
沖縄新エネ開発株式会社

豊見城市庁舎における かりーるーふ（太陽光第三者所有モデル）の運用開始について

この度、豊見城市（市長：徳元 次人）において、沖縄電力グループの沖縄新エネ開発株式会社（代表取締役社長：嘉味田朝紀 以下「沖縄新エネ開発」）が手掛ける「かりーるーふ※（太陽光第三者所有モデル）」の運用を開始しました。

豊見城市は、“環境に優しい住みよいまち”をテーマに「豊見城市地球温暖化防止実行計画」を策定し、同市の事務事業から排出される CO2 排出量の抑制に取り組み、低炭素社会の実現を目指しております。

今回、沖縄新エネ開発が豊見城市の初期費用負担ゼロで同庁舎に太陽光発電設備（65kW）を設置することで、同庁舎で使用する年間使用電力量の約 15%が太陽光発電により供給されることになり、年間約 91 t（杉の木約 1 万本分）の CO2 削減に貢献します。

さらに、台風等の災害による停電時は、太陽光発電設備から蓄電池（13.5kWh）に充電された電力を活用することで、庁舎機能の強化を図ります。

また、県内庁舎では初めての「かりーるーふ」導入となり、モデルケースとなります。これは、沖縄電力が掲げるコーポレートスローガン「地域とともに、地域のために」に資する取り組み、および沖縄電力グループが目指す「2050 年 CO2 排出ネットゼロ」実現に向けた方向性の一つである「再エネ主力化」を一層推進する取り組みにも繋がります。

3 者は、本サービスの導入を通して、今後も沖縄県の持続可能な社会づくりに向けた取り組みを推進してまいります。

※ 「かりーるーふ」は、太陽光発電設備と蓄電池を初期投資ゼロで設置し、発電した電気をお客さまに販売するサービス。ご検討から導入、メンテ、撤去まで沖縄新エネ開発がワンストップで対応。

